

## 三保漂着端脚目クラゲノミ亜目

### ツノウミノミ

横山謙二

端脚目クラゲノミ亜目の中で、第5胸肢の腕節と前節がなす擬鉗（subchela）を持つものは、Phronimidae タルマワシ科と Phrosinidae マルオウミノミ科のみで、この2科の中で第3～6胸肢のすべてに擬鉗（subchela）を有するのは、ここで紹介するツノウミノミ *Phrosina semilunata* Risso, 1822 だけの特徴です。さらに本種は、頭部に小さく尖った1対の吻を備えます。

本種は、熱帯、亜熱帯、温帯のすべての海洋域に生息し、表層から水深1,000mまで分布します。明確な日周移動は確認されていませんが、個体群の一部が夜間に表層へ移動する事例が報告されています（Vinogradov et al., 1996）。

駿河湾では、三保海岸で打ち上げられたミズウオの胃の内容物としての記録があり（Kubota and Uyeno, 1970）、私も2025年2～3月にかけての早朝に、多く本種の打ち上げを確認しており、その中には生きた状態のものもありました。

#### 引用文献

Kubota T. and T. Uyeno (1970) Food Habits of Lancetfish *Alepisaurus ferox* (Order Myctophiformes) in Suruga Bay, Japan, Japanese Journal of Ichthyology 17(1):22-28.

Vinogradov, M. E., Volkov, A. F., & Semenova, T. (1996) Hyperiid amphipods (Amphipoda, Hyperiidea) of the world oceans. Science Publishers, Lebanon, 632 pp.



2025年2月15日 生きた状態で漂着したツノウミノミ



水中の様子